

練馬区立小中一貫教育校大泉桜学園検証報告書（構成案）

項目
表紙
表紙（裏）
あいさつ（教育長）
あいさつ（酒井先生）
目次
第 1 章 練馬区における小中一貫教育の取組
1 大泉桜学園開校前
2 大泉桜学園開校後
第 2 章 大泉桜学園の概要
1 現況と推移
（1）設置
（2）施設
（3）児童生徒数・教職員数
2 あゆみ
（1）開校前
（2）開校後
3 教育活動
（1）教育目標と三つの指針
（2）学校経営体制
（3）教育の重点
異年齢集団の交流と～
指導方法の工夫・改善に努め、～
日本の伝統・文化の理解を深め～
児童生徒理解と健全育成を～
望ましい勤労観・職業観を～
小中一貫教育校としての研究成果を～
練馬区発の小中一貫教育校にふさわしい～
業務委託会社（給食・用務）との的確な～
（4）年間行事予定（平成26年度の例）
（5）学校生活
生活時程
部活動
標準服
校歌、校章
第 3 章 検証計画
1 検証の必要性和準備
（1）必要性和文部科学省調査研究事業
（2）小中一貫教育校検証部会
2 基本方針
3 検証項目と活用資料

項目
(1) 検証項目
(2) 活用資料
(3) 検証資料の取扱い
(4) 意識調査
(5) 聞き取り調査
第4章 検証結果
1 9年間を見通したカリキュラムを作成・実施することにより、発達段階に応じた計画的・継続的な学習指導および生活指導の充実を図ることができる。(主に学習指導、体力向上)
(1) 以下、検証のまとめに応じて小項目を設定する。
2 小学校から中学校へ進学する際の段差(学習内容や指導方法の違い)を緩やかなものにし、円滑な移行が図れる。その結果、不登校生徒を減少させることもできる。(主に生活指導、特別支援教育)
(1) 以下、検証のまとめに応じて小項目を設定する。
3 幅広い異年齢集団による活動を通じて、豊かな人間性や社会性の育成ができる。(主に道徳、総合的な学習の時間、特別活動、進路指導)
(1) 以下、検証のまとめに応じて小項目を設定する。
4 小学校の教員と中学校の教員の相互協力関係が今まで以上に構築でき、学力や体力の向上等の高い教育効果を上げることができる。(主に学校運営)
(1) 以下、検証のまとめに応じて小項目を設定する。
5 地域社会と連携した特色ある学校づくりを推進し、魅力ある学校とすることによって、保護者や地域社会からの信頼を得られる。その結果、学校と地域社会の活性化を図ることができる。(主に保護者、地域)
(1) 以下、検証のまとめに応じて小項目を設定する。
6 施設整備における効果と課題
(1) 以下、検証のまとめに応じて小項目を設定する。
7 小中一貫教育の課題を解決し推進するための先導的な役割、通学区域と学校選択制度、教育委員会の役割
(1) 以下、検証のまとめに応じて小項目を設定する。
第5章 今後の課題
1 施設が離れている小・中学校に生かせること
2 2校目の施設一体型小中一貫教育校に生かせること
3 大泉桜学園の目指すもの
資料
1 大泉桜学園施設配置図
2 学校評価
3 意識調査結果
4 聞き取り調査結果
5 文部科学省調査研究事業
(1) 練馬区小中一貫教育推進会議の設置・運営について
(2) 小中一貫教育校による多様な教育システムの調査研究事業練馬区企画提案概要
6 検証部会名簿
7 検討経過
後付け